

## 1. 略歴

1992年	University of California, Los Angeles Ph.D
1992年	京都大学大学院文学研究科博士後期課程
1992年4月	名古屋明德短期大学講師
1995年4月	日本福祉大学情報社会科学部助教授
1999年6月	名古屋大学情報文化学部助教授
2001年4月	名古屋大学大学院環境学研究科助教授
2006年10月	東京大学大学院人文社会系研究科准教授
2010年8月	東京大学大学院人文社会系研究科教授

## 2. 主な研究活動

### a 専門分野

社会心理学

### b 研究課題

- 1) Mind reading and moral judgments
- 2) Beliefs in free will and self-regulation
- 3) Methodology and Science communication

### c 概要と自己評価

概要

1) Mind reading and moral judgments : 近年の社会心理学は、私たちが道徳的事柄、公正さに関心を抱く「モラル・エージェント」であるという人間観を提出している。この研究課題は、他者の心的状態（意図・動機・態度・感情など）の推論に基づき他者を「裁き」の視線で評価し、そこでの評価に基づき、「援助、非難、許し」などの道徳的な態度・行動を他者に向ける点に着目し、モラル・エージェントを支える社会的認知過程を解明することを目指す。

2) Beliefs in free will and self-regulation : 本研究課題は、自由意志信念や決定論的信念が自己制御的な行動や、自己・他者の行動理解に及ぼす影響について検討するものである。決定論的信念としては、遺伝子決定論、科学決定論、社会決定論などを対象とし、自由意志信念とともにそれらの認知構造の解明を目指すと共に、自己制御的な対人判断や行動を促進、抑制する心的メカニズムについて検討する。

3) Methodology and Science communication : 本研究課題では、「科学知・実践知・人文知」の融合領域として社会心理学を位置づけた上で、その立ち位置からの方法論の批判的検討、および、科学的成果を市民に伝達する際の諸問題についての検討を行う。特にAI、ロボット、自動運転など、新たな技術導入による影響や社会受容を対象に議論を進める。加えて科学技術に関するESLI・RRIに対する社会心理学の貢献を探る活動を行う。

自己評価

これらの研究課題について、科学研究費などの支援も得て、活発にデータ収集活動を行い、その成果を学会発表、論文という形で発信している。その多くは大学院生との共同研究であり、後継者育成についても努力している。1)については、その成果を著書にまとめたとともに、3)と融合させ、「ロボット」「人工知能」など、人以外の対象に対する心的状態の推論に議論を拡張し、応用可能性を検討するための研究プロジェクトを工学関係の研究者と遂行している。また日立東大ラボなどの活動を通して、企業に所属する研究者と共に、技術の社会実装、社会受容についても考察を進めている。2)については「自由意志の有無」に関する科学コミュニケーション、また哲学者との共同研究として実験哲学的な概念分析へと議論を展開している。また、認識論についての大規模な国際比較研究のチームに日本のリーダーとして所属しており、国際交流も積極的に進めている。以上の研究は、科学哲学、工学などの研究者と進めているが、今後は、さらに研究のネットワークを広げるとともに、他分野に対しても積極的な研究の成果発信に努め、融合的領域としての社会心理学の基盤形成に尽力したい。

### d 主要業績

#### (1) 著書

Machery, E., Stich, S., Rose, D., Chatterjee, A., Karasawa, K., Struchiner, N., Sirkker, S., Usui, N., & Hashimoto, T. 『Gettier was framed. In S. Stich, M. Mizumoto, & E. McCready (Eds.), Epistemology for the Rest of the World (pp. 123-148)』, New York: Oxford University Press, 2018

唐沢かおり、「幸福への課題：個と社会の調和に向けて」、日立東大ラボ（編）『Society 5.0：人間中心の超スマート社会』、pp.272-284、日本経済新聞出版社、2018

唐沢かおり、「ステレオタイプと偏見」、竹村和久（編）『公認心理師の基礎と実践 ⑩社会・集団・家族心理学』、pp. 47-60、遠見書房、2018

唐沢かおり、「高齢者」、北村英哉・唐沢穰（編）『偏見や差別はなぜ起こる？』、pp.203-219、ちとせプレス、2018  
編著、戸田山和久・唐沢かおり、『〈概念工学〉宣言！ 哲学×心理学による知のエンジニアリング』、名古屋大学出版会、2019

## (2) 論文

田戸岡好香・樋口収・唐沢かおり、「食品のネガティブイメージにステレオタイプ抑制が及ぼす影響」、『心理学研究』、89、22-28 頁、2018

Hashimoto, T., & Karasawa, K., 「Impact of consumer power on consumer's reactions to corporate transgression.」, 『PLoS One』、13、2018

白岩祐子・唐沢かおり、「死因究明における死亡時画像診断(Ai)の意義：司法解剖を経験した交通死遺族との面接にもとづく検討」、『人間環境学研究』、16、25-34 頁、2018

Cova, F., Machery, E., Stich, S., Rose, D., Olivola, C. Y., Alai, M., Angelucci, A., Bermiūnas, R., Buchtel, E. E., Chatterjee, A., Cheon, H., Cho, I.-R., Cohnitz, D., Dranseika, V., Lagos, Á. E., Ghadakpour, L., Grinberg, M., Hannikainen, I., Hashimoto, T., Horowitz, A., Hristova, E., Jraissati, Y., Kadreva, V., Karasawa, K., Kim, H., Kim, Y., Lee, M., Mauro, C., Mizumoto, M., Moruzzi, S., Omelas, J., Osimani, B., Romero, C., Rosas Lopez, A., Sangoi, M., Sereni, A., Songhorian, S., Sousa, P., Struchiner, N., Tripodi, V., Usui, N., Vázquez del Mercado, A., Volpe, G., Vosgerichian, H. A., Zhang, X., & Zhu, J., 「De pulchritudine non est disputandum? A cross-cultural investigation of the alleged intersubjective validity of aesthetic judgment」, 『Mind & Language』、2018

齋藤真由・白岩祐子・唐沢かおり、「大学生における司法参加意欲の規定因：要因関連モデルを用いた検討」、『実験社会心理学研究』、58、1-14 頁、2018

Hashimoto, T., Karasawa, K., Hirayama, K., Wada, M., & Hosaka, H., 「Community Proactivity in Disaster Preparation: Research Based on Two Communities in Japan」, 『Journal of Disaster Research』、13、755-766 頁、2018

ターン有加里ジェシカ・村田光二・唐沢かおり、「犯罪者の子どもと連合的スティグマー—遺伝的本質主義の観点から—」、『人間環境学研究』、16、77-82 頁、2018

白岩祐子・小林麻衣子・唐沢かおり、「犯罪被害者遺族による制度評価—被害者参加制度・意見陳述制度に着目して—」、『犯罪心理学研究』、56、105-115 頁、2018

Ohtaka, M., & Karasawa, K., 「Perspective-taking in families based on the social relations model」, 『実験社会心理学研究』、58、111-115 頁、2019

ターン有加里ジェシカ・橋本剛明・Manfred Schmitt・唐沢かおり、「公正感受性尺度日本語版 (JSI-J) の作成」、『心理学研究』、印刷中、2019

Yukari Jessica Tham, Takaaki Hashimoto, and Kaori Karasawa, 「The positive and negative effects of justice sensitivity and justice-related emotions in the volunteer's dilemma」, 『Personality and Individual Differences』、In press、2019

福本都・橋本剛明・唐沢かおり、「争いの被害者のパーソナリティと赦し—視点取得の効果に着目して—」、『人間環境学研究』、17、17-24 頁、2019

Tanibe, T., Hashimoto, T., Tomabechi, T., Masamoto, T., & Karasawa, K., 「Attributing mind to groups and their members on two dimensions.」, 『Frontiers in Psychology』、10, 840. 2019

白岩祐子・齋藤真由・唐沢かおり、「司法解剖の告知による死者の非人間化：心の知覚理論にもとづく検討」、『死生学・応用倫理研究』、24、39-57 頁、2019

福本都・橋本剛明・唐沢かおり、「争いの被害者のパーソナリティと赦し—視点取得の効果に着目して—」、『人間環境学研究』、17、17-24 頁、2019

Tham, Y. J., Hashimoto, T., & Karasawa, K., 「The positive and negative effects of justice sensitivity and justice-related emotions in the volunteer's dilemma」, 『Personality and Individual Differences』、151(1), 109501、2019

ターン有加里ジェシカ・橋本剛明・Manfred Schmitt・唐沢かおり、「公正感受性尺度日本語版 (JSI-J) の作成」、『心理学研究』、90、503-512 頁、2019

Hannikainen, I. R., Machery, E., Rose, D., Stich, S., Olivola, C. Y., Sousa, P., Cova, F., Buchtel, E. E., Alai, M., Angelucci, A., Bermiūnas, R., Chatterjee, A., Cheon, H., Cho, I., Cohnitz, D., Dranseika, V., Lagos, Á. E., Ghadakpour, L., Grinberg, M., Hashimoto, T., Horowitz, A., Hristova, E., Jraissati, Y., Kadreva, V., Karasawa, K., Kim, H., Kim, Y., Lee, M., Mauro, C., Mizumoto, M., Moruzzi, S., Omelas, J., Osimani, B., Romero, C., Rosas, A., Sangoi, M., Sereni, A., Songhorian, S., Struchiner,

N., Tripodi, V., Usui, N., del Mercado, A. V., Volpe, G., Vosgerichian, H. A., Zhang, X., Zhu, J., 「For whom does determinism undermine moral responsibility? Surveying the conditions for free will across cultures」、『Frontiers in Psychology』2019

(3) 学会発表

- 国内、福本都・橋本剛明・唐沢かおり、「争いの被害者のパーソナリティと赦し：視点取得の効果に着目して」、日本社会心理学会第59回大会、追手門学院大学、2018.8.28
- 国内、ターン有加里ジェシカ・村田光二・唐沢かおり、「犯罪者の子どもと連合的スティグマ：遺伝的本質主義の観点から」、日本社会心理学会第59回大会、追手門学院大学、2018.8.28
- 国内、森芳竜太・白岩祐子・唐沢かおり、「炎上加担者はどのような人物か：『広めること』に着目して」、日本社会心理学会第59回大会、追手門学院大学、2018.8.28
- 国内、唐沢かおり、「『心』の概念工学」、日本社会心理学会第59回大会、追手門学院大学、2018.8.28
- 国内、笠原伊織・唐沢かおり、「自由意志信念が量刑判断に及ぼす影響：顕在的動機との関連に着目して」、日本社会心理学会第59回大会、追手門学院大学、2018.8.29
- 国内、谷辺哲史・唐沢かおり、「介護ロボットの生物らしさの知覚が利用意図に与える影響」、日本社会心理学会第59回大会、追手門学院大学、2018.8.29
- 国内、白岩祐子・栗本真奈・唐沢かおり、「形見における両価性：死別の受容との関係から」、日本グループ・ダイナミックス学会第65回大会、神戸大学、2018.9.8
- 国内、谷辺哲史・橋本剛明・苜米地飛・正本拓・唐沢かおり、「集団の実体性が集団への心の帰属に与える影響」、日本グループ・ダイナミックス学会第65回大会、神戸大学、2018.9.9
- 国内、森芳竜太・橋本剛明・唐沢かおり、「『制裁への不十分感』が第三者の制裁行動に及ぼす影響」、日本グループ・ダイナミックス学会第65回大会、神戸大学、2018.9.9
- 国内、唐沢かおり、「Society 5.0 と心理学：IT システムと社会規範について」、日本心理学会第82回大会、仙台国際センター、2018.9.25
- 国内、谷辺哲史・佐藤由依・唐沢かおり、「援助依頼への曖昧なフィードバックの解釈における受容期待の効果」、日本心理学会第82回大会、仙台国際センター、2018.9.26
- 国内、唐沢かおり、「日本心理学会におけるジェンダー平等の現状と課題：社会心理学の現状」、日本心理学会第82回大会、仙台国際センター、2018.9.27
- 国際、Karasawa, K., 「Human-robot interaction and perception of subjective state in a robot」、International Workshop on Morality and Robots: Moral HRI, Meiji University、2018.11.30
- 国際、Tham, Y., Hashimoto, T., & Karasawa, 「Egoistic Motives of Concerning Injustice for Others: Justice Sensitivity and Self-Consciousness.」、The Society for Personality and Social Psychology Annual Convention, Portland, OR、2019.2.7
- 国際、Tanibe, T., Zemba, Y., & Karasawa, K., 「Mind Attribution to Social Robots and Elderly Care」、The Society for Personality and Social Psychology Annual Convention, Portland, OR、2019.2.9
- 国際、Hashimoto, T., & Karasawa, K., 「Effects of Agency on Morally Instrumental Harm: A Mouse-Tracking Investigation.」、The Society for Personality and Social Psychology Annual Convention, Portland, OR、2019.2.9
- 国際、Hashimoto, T., & Karasawa, K., 「General/Personal Just World Beliefs as Determinants of Attitudes toward Victim of Perpetration.」、International Convention of Psychological Science, Paris, France、2019.3.7
- 国際、Tham, Y. J., Hashimoto, T., Schmitt, M., and Karasawa, K., 「Development of a Japanese version of the Justice Sensitivity Inventory (JSI-J)」、The 9th Asian Conference on Psychology & the Behavioral Sciences, Tokyo, Japan、2019.3.21
- 国際、Tham, Y. J., Hashimoto, T., Shiraiwa, Y., and Karasawa, K., 「Who “volunteers”? The effect of justice sensitivity in a volunteer’s dilemma at a university dorm」、The 9th Asian Conference on Psychology & the Behavioral Sciences, Tokyo, Japan、2019.3.23
- 国内、唐沢かおり、「Society 5.0 を応用哲学する：IT システムと社会規範(2)」、応用哲学会第11回年次大会、京都大学、2019.4.28
- 国内、唐沢かおり、「データ駆動社会のリスクについて—「人間中心」社会の実現に向けたデータ活用のあり方—」、第55回横幹技術フォーラム「Society5.0 が実現するデータ駆動型まちづくり—展望と課題—」、日本大学、2019.5.28
- 国内、ターン有加里ジェシカ・村田光二・唐沢かおり、「血縁関係に対する潜在的態度と顕在的態度」、日本認知科学会第36回大会、静岡大学、2019.9.5
- 国内、唐沢かおり、「高等学校への心理学教育の導入をめぐる」、日本心理学会第83回大会、立命館大学、2019.9.12
- 国内、唐沢かおり、「ワーキングメモリの測定と概念化」、日本心理学会第83回大会、立命館大学、2019.9.13

- 国内、唐沢かおり、「データ活用による住民のためのまちづくりにおける社会心理学の貢献を探る」、日本グループ・ダイナミクス学会第 66 回大会、富山大学、2019.10.19
- 国内、谷辺哲史・唐沢かおり、「自動運転による事故とメーカーへの責任帰属」、日本グループ・ダイナミクス学会第 66 回大会、富山大学、2019.10.19
- 国内、橋本剛明・唐沢かおり、「道徳的ジレンマ判断に行為者性と自己制御が与える影響—マウストラッキングによる意思決定過程の検討—」、日本グループ・ダイナミクス学会第 66 回大会、富山大学、2019.10.29
- 国内、苫米地飛・唐沢かおり、「自由意志信念とその関連信念が自己コントロールに与える影響」、日本グループ・ダイナミクス学会第 66 回大会、富山大学、2019.10.29
- 国内、白岩祐子・堀江宗正・唐沢かおり、「日本人の死後観—死後生はどのように信じられているか—」、日本社会心理学学会第 60 回大会、立正大学、2019.11
- 国内、唐沢かおり、「Society5.0 の課題と社会心理学の貢献」、日本社会心理学学会第 60 回大会、立正大学、2019.11.10
- 国内、谷辺哲史・膳場百合子・唐沢かおり、「ロボットに対する心の知覚の 2 次元構造と利用意図—介護場面におけるコミュニケーションロボットの利用を題材とした検討—」、日本社会心理学学会第 60 回大会、立正大学、2019.11.10
- 国内、ターン有加里ジェシカ・橋本剛明・唐沢かおり、「ボランティアのジレンマにおける構成感受性の正の影響と負の影響—「誰かがやらなければいけない」状況での行動意思の個人差—」、日本社会心理学学会第 60 回大会、立正大学、2019.11.10
- 国内、苫米地飛・唐沢かおり、「遺伝子に基づく説明が責任帰属に与える影響—遺伝子本質主義の態度に着目して—」、日本社会心理学学会第 60 回大会、立正大学、2019.11.10
- 国際、Tham, Y., Hashimoto, T., Shiraiwa, Y., & Karasawa, K., 「Take one for the team!」 The positive and negative effects of justice sensitivity in a volunteer's dilemma in workplace scenarios」、The 13th biennial Asian Association of Social Psychology, Taipei, 2019.7.12
- 国際、Tham, Y. J., Hashimoto, T., & Karasawa, K., 「How people evaluate volunteers and shirkers in the volunteer's dilemma? The effect of perceived cost of volunteering」 The Society for Personality and Social Psychology Annual Convention, New Orleans, 2020.2.28
- (4) 啓蒙  
唐沢かおり、「心を読むことをめぐって—付度の心理学」、『心と社会』、183、99-104 頁、2018  
唐沢かおり、「非人間化—ひととして尊重しないこと—をめぐって」、『TASC Monthly』、512、6-12 頁、2018
- (5) 受賞  
国内、唐沢かおり、日本社会心理学会出版賞、日本社会心理学会、2018.8.28

### 3. 主な社会活動

#### (1) 学会

- 国内、日本社会心理学会、会長、2019.4～
- 国内、日本社会心理学会、常任理事、2018.4～2019.3
- 国内、応用哲学会、理事、2018.6～
- 国内、科学哲学会、理事、2019.4～
- 国内、科学基礎論学会、理事、2018.4～
- 国内、日本心理学会、代議員、2018.4～

#### (2) 行政

- 自治体、消防庁、科学技術政策、火災予防審議会委員、2018.7～

#### (3) 学外組織（学協会、省庁を除く）委員・役員

- 日本学術会議（第一部）、連携会員、2018.4～
- 日本学術振興会学術システム研究センター専門研究員、2018.4～